

令和5年度 第85回 大学院セミナー

令和6年3月7日

分野名 (責任者名)(内線)	先進予防医学共同専攻 リウマチ・膠原病内科学分野 責任者名(川上 純) 内線(7260)
演題	オルガノイドを用いたヒト疾患研究の地平
講師等	慶應義塾大学医学部医化学教室 教授 佐藤 俊朗 先生
概要	我々が日常診療で会う患者さんたちの症状は、個体を構成する数十兆個の細胞が織りなす恒常性維持機構の破綻と捉えることができます。近年、ゲノム、エピゲノム、単一細胞レベルでの遺伝子発現解析など、細胞生物学の進歩は目覚ましく、症候とその原因を要素還元的に理解できることが期待されています。しかしながら、ヒトの病気の生物学的理解はまだ成熟しておらず、細胞株やマウスなどのモデルを用いた研究は、必ずしもヒトの病態を反映していないという課題があります。培養細胞のPCRやウェスタンブロットの結果と患者さんの症状には、データとしての質に大きな差があります。臨床医は、マウスにできた腫瘍とヒトの腫瘍は大きさも悪性度も異なることに容易に気づきません。それでは、どのようにすればベンチでの研究とベッドでの臨床の差を縮めることができるのでしょうか？我々は常にこうした問いを持ちながら研究をしております。解決したわけではありませんが、こうした日々の格闘から得られた成果を解説し、臨床医がどのように研究へアプローチしたらよいか、ディスカッションができればと思います。
開催日時	令和6年 3月 19日(火) 17:00 ~18:30
場所	会場(良順会館 専斎ホール)とZOOMによるハイブリッドオンラインセミナー。オンライン参加の方は右のQRコード、あるいは https://forms.gle/mPm6AzFDSGCyHp5E9 から3月18日までに事前登録をしてください。Zoom 情報を送付します。
備考	* Zoom 情報は同日16:00からの第86回大学院セミナーと共通です。



- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語(Japanese)
- 対面(Face to face)

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語(English)
- オンライン(Online)